

小講演会

古高生に、視野を広げたり進路を考えたりする機会を提供したいという趣旨の下、今年度は4回の小講演会を開催しました。参加した生徒は、各分野で活躍されている先生方の熱いお話しと耳を傾けていました。

第一回小講演会に参加して

私は今回の小講演会を通して、社会学とはどういうものなのか、また何が大切なのかを学ぶことができました。お話を伺う前は、社会学は複雑で難しいというイメージを持っていました。しかし講演会が進むにつれて、そうではないということが分かりました。講師の村瀬さんは、社会学とは秩序問題や社会構造について学ぶ学問だと述べられていました。それは難しい問題だけでなく、身近な問題ももちろん含まれます。

また、村瀬さんは社会学とは

たくさん違った見方があるとも述べられていました。見方が違えば考え方も違ってきます。だからこそ、広い社会を見るための努力が大切なのです。

小講演会に参加して、私はたくさんの視点から物事を見つめ考えることが大切だということを考えさせられました。これからは、広い視野を持つことが必要となってくると思います。そのためにも、たくさんの人から話を聞き、広い社会を見るための努力をしていきたいです。

第二回小講演会に参加して

私達が風邪をひいたときや、病気になったときにお世話になっている薬の中には、セレンという物質が含まれています。今回講演をしてくださった齋藤先生は、日本を代表するセレン研究者です。

齋藤先生は古川のご出身というところで、古高生時代の話も交えながら楽しく語ってくださいました。先生は大学の時、教授から「これやってみないか」と言われて研究を始めたそうです。それが今日も続いていると聞いて驚きました。そして、築き上

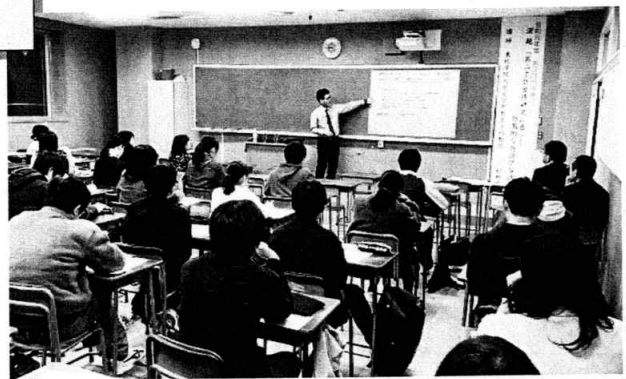
げた論文を海外でも発表されていて、改めて努力は報われるのだと感じました。

先生は最後に、「講義だけで満足せず、アグレッシブにいろんなことに挑戦して」「受け身学習から脱却して」とおっしゃいました。私はこの言葉が最も心に残っています。授業でも受け身ではなく、内容の本質を自分で探っていくことが大事なのだと思えました。これからは先生のように様々なことを意欲的に学んでいこうと思います。

- 第1回 6月10日
「大学で社会学を学ぶ意味とは何か
～日本の不平等と社会の変化」
講師：村瀬 洋一氏（立教大学社会学部社会学科教授）
- 第2回 9月17日
「エキサイティングな薬学研究！
—微量元素セレンの研究を例に」
講師：齋藤 芳郎氏（東北大学薬学研究科教授）
- 第3回 11月28日
「第二言語習得研究に基づく効果的な英語学習法」
講師：村野井 仁氏（東北学院大学文学部教育学科教授）
- 第4回 2月26日
「加美町のまちづくりと町職員の役割」
講師：猪股 洋文氏（加美町長）



古高時代の思い出も語っていただきました。(第2回)



効果的な英語の学習方法とは？(第3回)